



実技紹介

鳴物練習に役立つリトミック

リトミックとは、音楽教育法の一つで、からだの動きを音楽に結びつけ、リズム感や拍子感、音感などを育てるものです。リズム運動やからだを動かす経験を通して、鳴物に必要なリズム感や拍子感、音感などを幼児期から身に付けることを目指します。

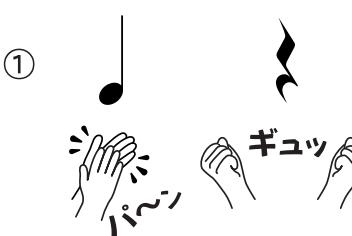
□ 鳴物を持つ前に、遊びを通してリズム感を養います。2拍子の歌をうたいながら、リズム遊びをしましょう。

※「あやがみさま(A-1)」「あまいり(A-4)」「あやさま(B-3)」「三つの木(E-3)」など。

※曲名()内は、『みちのこのうた』(ファイル)に掲載されている番号です。

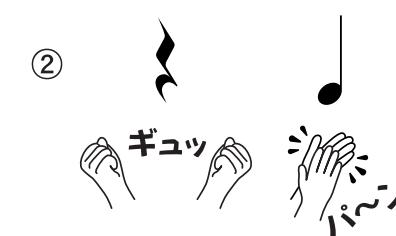
チャレンジ1：どんなことばに聞こえるかな？

(例) パン



や

(例) アン



パン

①

②

※①のリズムを打ち、子供たちに何のことばに聞こえるか質問します。

※①のリズムのイメージがわけば、②のリズムにチャレンジします。

※子供たちのイメージにリズムをあてはめ、親しみのあることばからリズムを学びます。

チャレンジ2：ことばを言いながら、連続してリズム打ちをしましょう。

(例) パン

や

パン

や

パン

や

①

ギュッ

ギュッ

ギュッ

ギュッ

ギュッ

※①のリズム打ちができれば、②のリズム打ちにチャレンジします。

チャレンジ3：2拍子の歌をうたいながら、①のリズム打ちをしましょう。

※歌をうたいながら、①のリズム打ちができれば、②のリズム打ちにチャレンジします。

※『みちのこのうた』を知らない子供が多い場合は、一般の曲でもかまいません。

「かたつむり」「チューリップ」「どんぐりコロコロ」など。

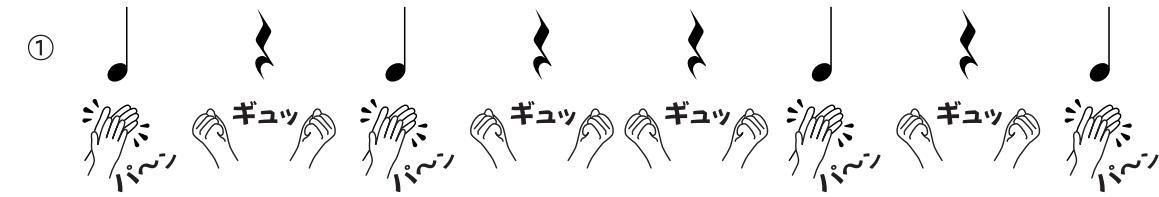
チャレンジ4：①、②のグループに分かれて、同時にリズム打ちをしましょう。

※相手チームにつられるようでしたら、グループごとに練習してから同時にします。

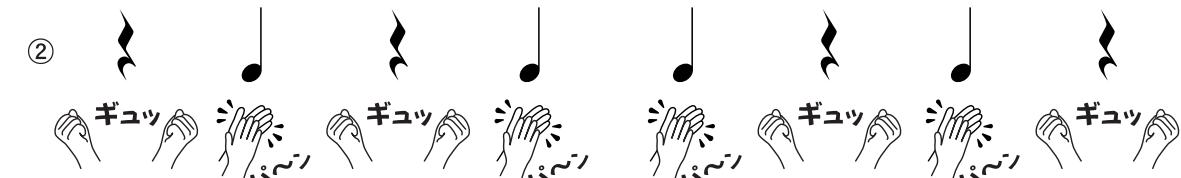
チャレンジ5：リーダーの「こうたい」の合図で、リズム打ちをチェンジしましょう。

(リーダー合図)

こう
たい



②のリズム打ち



①のリズム打ち

チャレンジ6：チャレンジ4、5を歌をうたいながらしましょう。

①が「拍子木」のリズム、②が「ちゃんぽん」のリズムとなっています。「こうたい」の合図を出すことによって「重ね打ち」の練習にもなります。

□ ワンポイント アドバイス

リーダーの合図は、子供たちに分かりやすければ何でもかまいませんが、テンポ通り合図をかけるとともに「せ～の！」のように語尾を少し上げると、子供たちは、よりタイミングをつかみやすくなります。そして、終わる合図もテンポ通り「おしまい」などとかけます。

(リーダー合図)

1

2

1

2

1

2

また、リズム

さん
はい

どう

ぞ

こう

たい

おし

まい

を増やすことで、「すりがね」のリズム打ちの練習もできます。

子供たちのイメージにあわせ、遊びを通して鳴物に必要なリズム感などを学びましょう。



教材を活用しよう！



『みちのこのうた』(ファイル)

■ 頒価／500円(税込)

■ 頒布方法／少年会本部にて頒布しております。

■ ファイル／両面刷り・曲数79曲

縦170mm×横110mm

※テーマソングなどの新曲(別売)も追加できるように、ファイル形式になっています。